

チャペル週報

No.6

2023.5.22～5.26

恵み深い主に感謝せよ。慈しみはとこしえに。

神の中の神に感謝せよ。慈しみはとこしえに。

主の中の主に感謝せよ。慈しみはとこしえに。

詩編 136 編 1-3 節



ランバス記念礼拝堂（西宮上ヶ原キャンパス）

<春季宗教運動特集号>

関西学院宗教センター

Mastery for Service という生き方

中道 基夫

生き方、これはとても難しい言葉です。朝起きて、学校や仕事に行き、食べて、スマホやテレビを見て、買い物をして、時々ボーッとしたり、友達と話したり、勉強したり、そして寝て、また起きる。多少変化はあってもその繰り返しじゃないのかと考えてしまいます。生き方？はたしてそんなものがあるのか、とさえ思うこともあります。生き方なんて考えても、所詮人生は思うようにはならないと考えるかもしれません。しかし、そう考えるのも一つの生き方といえます。

ただ私たちは幸福になりたいとは思っています。どうすれば幸福になるのかは、それぞれ違うでしょう。その幸福になる方法が、生き方だともいえます。ただ、大学に入学したら幸福になる、勉強やクラブでいい成績をおさめたら幸福になる、いい会社に就職できたら幸福になると考えていても実際その憧れが実現して幸せな思いに浸りますが、しばらくするとそうでもないと感じることがあります。

「人が全世界を手に入れても、自分の命を損なうなら、何の得があろうか」(マルコ8:36)という言葉は、「自分・他人が憧れる物をすべて手に入れても、自分の心が幸せでなければ、本質のところで満たされていないければ、どうして幸福であると言えるだろうか」と言い換えることができます。逆に言うならば、自分の命を手に入れることができたならば、あらゆるものを失っても、自分は幸福であるといえます。

関西学院のスクールモットーである“Mastery for Service”には自分の命を手に入れる秘訣が隠されています。それは、私たちはひとりで生きているのではなく、人と共に、また自然と共に生きており、自分ひとりでは決して幸せにならない。他者、自然が幸せでなければ、自分も幸せにならないということです。もちろん、他者や自然は自分の幸せを手に入れる手段ではありません。そういう命のつながりの中に私たちは生きており、そのつながりの中で私たちの命が輝きます。私たちの損なわれることのない幸福へと導く“Mastery for Service”という生き方を、ぜひ身につけてください。

(院長)

関西学院大学で学ぶ意義

森 康俊

今、大学での学びが変わると言われています。いろいろな言い方がありますが、煎じ詰めると、「知識獲得型」から「課題解決型」へ学びのスタイルが変化するということです。知識を引き出すことは、AIの進化やネット上のサービスが充実したことで、能力や資質に依存することなく、多くの人とそのメリットを享受できるようになりました。知識を持つことが自動的に権力を有することになる関係は、15世紀、印刷術の発明による書物の普及により崩れ、情報社会の進展によって、必然的なものではなくなりました。大学の役割は否応なく、知識を前提に科学的真理や社会的課題の解決へと導く力（スキル）を育むことに転換すべきだと考えられるようになったのです。

中世ヨーロッパの歴史を紐解くと、大学は、学生（学びたい人）と教師（教える人）はお互いを求めあうなかで、組合のような団体をつくり、学生が教師に給与を払う形で、あるいは教会が媒介となって、教師への給与を払うようなしくみができあがってきました。現代では、学費は大学にまとめて支払うものですが、学びの対価として、学生が直接教師に支払っていた時代があったわけです。キリスト教と教会はこうした学びの中心に位置していました。大学の目的は専門職の養成にありましたので、聖職者、法律家、医師を育成するため、神学部、法学部、医学部が発展し、その他、自由学芸学部が大学を構成することになっていきます。

当時はキャンパスと呼べる空間はなく、工夫をして授業の場所を確保していたといえます。現在のオンライン授業やメタバース利用のことを考えると興味ぶかいことです。このような大学での学びの＜原点 origin＞を確認しておくことは重要です。その原点を体感できる場所として、私たちの大学は存在していると思います。

関西学院の創立者ウォルター・R・ランバス先生は、神学と医学を修めた後、宣教師として来日、教師5名・生徒19名の学校を始めました。関西学院大学で学ぶことは、このような学問の歴史、大学の歴史の中に自らを位置づけて、修練していくことでもあります。皆さんの学びは次代へとつながっていきます。より良い社会の実現をめざす皆さんの期待に応える教育・研究を推進していく所存です。

(学長)

関西学院と女子教育の系譜

今津屋 直子

西宮聖和キャンパス1号館の玄関には、創立者のランバス先生と母君のメアリー（M.I.ランバス）のレリーフが掲げられている。この春にお目見えしたばかりで、卒業生や他キャンパスの皆さんはまだご存知ないかもしれない。

教育学部は2009年に関西学院大学と聖和大学の合併により誕生した。聖和大学の歴史を遡ると神戸婦人伝道学校（ランバス記念伝道女学校）、神戸女子神学校、広島女学校保母師範科の3つの学校に辿りつく。西宮聖和キャンパスにはその源流を伝える建物が3つある。メアリー・イザベラ・ランバスチャペル、ダッドレーメモリアルチャペル、そしてゲーンズハウスである。

先述のレリーフのモデルであり、山川記念館のチャペル名となったメアリーは神戸婦人伝道学校の設立に携わった。夫や息子が宣教活動、教会・学校建設に奔走している間、メアリーは自宅で女子に編み物や英語を教え、それが学校開設へと発展した。

ダッドレーメモリアルチャペルのある4号館はキャンパスで最も古い。ダッドレーとは神戸女子神学校の創立者の一人である女性宣教師、J.E.ダッドレーのことである。

広島英和女学校（広島女学校）は砂本貞吉によって創設されたが、その際に応援を求めたのが、ランバス先生と父ジェイムスであった。そこへ、ランバス夫妻の日本での宣教に感銘を受けた女性宣教師 A.E.ゲーンズが加わり、幼稚園や保母養成科開設へと展開させた。ゲーンズハウスの名前の由来である。

現在の関西学院は、ダイバーシティ（多様性）を力とする「垣根なき共同体」を目指しているが、創立時は男子の学校として始まった。学院の歴史に女子教育機関としての足跡はないが、先述の女子教育機関の誕生にはランバス先生をはじめ関西学院の関係者が関わっていた。日本を離れたのちランバス先生が赴いたアフリカの紀行文（『W.R.ランバス アフリカ伝道への祈りと足跡』中西良夫訳）には、アフリカに関わる婦人の活躍に対する称賛や、家政科学の重要性に対する見解が述べられている。それらは日本にいる宣教師たちにも伝わり、女子教育の推進に影響を与えたかもしれない。ランバス先生親子のレリーフの出現は、本学の歴史において女子教育は蚊帳の外ではなかったことを思い出させてくれる機会となった。

（副学長）

企業の社会的責任と建学の精神

古川 靖洋

今、多くの4年生の皆さんが就職活動をされていると思います。就職先として企業を選ぶ際の基準は色々あると思いますが、近年は企業の社会的責任(Corporate Social Responsibility : CSR)に注目する方も多いようです。では、CSRって何でしょうか。法律遵守、株式の配当率のアップ、雇用の維持、正当な納税、自然環境の保護などを挙げる方もいらっしゃるでしょう。これらはいずれもCSRに該当します。これらは、時代の流れの中で企業に対する様々な問題や要望が現われ、企業と社会それぞれが問題へ対処する過程で、人々の記憶の中に残り、CSRとして多くの人々に認識されるようになってきたものです。企業はこの多様な内容に前向きに応えることを求められています。

また、2021年度のトヨタ自動車の売上高は約31兆3,795億円で、この額はポルトガルやニュージーランドの名目GDPの額に相当します。トヨタ自動車は民間企業ですが、そのトップマネジメントはここに示した国々と同等の経済力に対する責任をもっているといっても過言ではありません。企業は社会というトータルシステムの中のサブシステムであるため、意思決定に際しては、企業の倫理的価値判断基準ではなく社会のそれを正確にとらえ、何ごとよりも優先させなければならないのです。それができないと、社会からの反発を招くことになり、最悪の場合、社会から淘汰されることとなります。

「私たちが理想とする事業家は・・・勤勉と正直により成功を収める能力がある人です。・・・その財力を社会状況の改良に用いることを人生の目的とする人、公共心をもち、社会的義務に鋭い感覚をもっている人」。これは第4代院長ベーツの講演論説”Mastery for Service”の中に出てくる一節で、理想の事業家について触れています。100年以上前にベーツは建学の精神の中で、現在求められている社会的責任を果たし、社会に貢献できるトップマネジメントの姿を我々に示されました。

関西学院大学で学ぶ学生諸君の多くは、これから社会に羽ばたくことになると思います。その際、建学の精神の全文に一度は目を通し、真のマスターとは何か、関西学院の卒業生として何を果たさなければならないのかを理解した上で、社会で活躍してもらいたいと思います。

(副学長)

チャペルアワー スケジュール

西宮上ヶ原キャンパス、西宮聖和キャンパス・・・10:30-11:00
神戸三田キャンパス・・・10:40-11:10

5/22 月

神 アジア祈祷日礼拝 森本 典子（神学部専任講師）
経 建学の精神③ 李 相勲（宣教師、経済学部准教授）
人 木原 桂二（商学部宗教主事）
建 柳 尚吾（建築学部准教授）
聖和 手良村クラス ダッドレーチャペル

23 火

大学合同チャペル「総主題：建学の精神」
西宮上ヶ原キャンパス(10:20-11:10) 会場：中央講堂
「Mastery for Service という生き方」
中道 基夫（院長）
神戸三田キャンパス(10:30-11:20) 会場：VI号館101教室
「関西学院大学で学ぶ意義」
森 康俊（学長）
西宮聖和キャンパス(10:20-11:10) 会場：メアリー・イザベラ・ランバスチャペル
「関西学院と女子教育の系譜」
今津屋 直子（副学長）

24 水

大学合同チャペル「総主題：建学の精神」 10:20-11:10(NUC, NSC) 10:30-11:20(KSC)
西宮上ヶ原キャンパス(10:20-11:10) 会場：中央講堂
「関西学院大学で学ぶ意義」
森 康俊（学長）
神戸三田キャンパス(10:30-11:20) 会場：VI号館101教室
「企業の社会的責任と建学の精神」
古川 靖洋（副学長）
西宮聖和キャンパス(10:20-11:10) 会場：メアリー・イザベラ・ランバスチャペル
「Mastery for Service という生き方」
中道 基夫（院長）

25 木

神 ウェスレー回心記念礼拝 水野隆一（神学部教授）
文 Andreas Rusterholz（宗教主事）
社 ボランティア活動支援センター
法 Tanguy Virin（留学生）
経 建学の精神④ 李 善恵（宣教師、人間福祉学部教授）
商 木原 桂二（宗教主事）
人 中野 陽子（人間福祉学部教授）
国 Chapel in English Janette McIntosh（宣教師、国際学部教授）
総 永嶋 里香（大阪YWCA職員）
聖和 聖和創立を覚えて 森本 宮仁子（非常勤講師）

26 金

神 平松洋一（日本基督教団芦屋岩園教会牧師）
文 Chapel in English Andreas Rusterholz（宗教主事）
経 建学の精神⑤ Timothy O. Benedict（宣教師、社会学部准教授）
理・工・生環 Christian Triebel（宣教師、学長直属助教）

◇ランバス早天祈祷会 毎週金曜日 8:10~8:30 ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)
5月26日(金) ペンテコステを前にして 打樋 啓史(宗教総主事)
毎週金曜日、各テーマに沿ったお話を聞き、参加者で祈りを捧げています。学生・教職員の方々に開かれた祈祷会です。ランバス礼拝堂とZoom併用で実施しておりますので、ぜひご参加ください。Zoomでご参加希望の教職員・学生の方は、宗教センター(shukyocenter@kwansei.ac.jp)へ
①メールアドレス②お名前③所属④関学との関係(学生等)をメールでお知らせください。

●院長室から発信! ビデオメッセージ「風に思う」配信のご案内

院長室からのビデオメッセージ「風に思う」の配信をしています。毎回、聖書の言葉を取り上げ、それが今を生きる私たちに何を語るか、短くお話しします。キャンパスの美しい風景と合わせて、関西学院の中心となる精神に触れてください。



(月2回程度で更新されます)

<https://ef.kwansei.ac.jp/about/kazeniomou> 「風に思う」 関西学院 院長室からのメッセージ(HP)

●「サイモン・バーチ Simon Birch」映画上映会

日時: 5月26日(金) 17:00-19:00

場所: 図書館ホール(上ヶ原キャンパス図書館の地下1階)

参加費: 無料(どなたでもどうぞお越しください)

主催: 宗教センター(宣教師企画)

協力: 宗教総部・聖書研究会「ポプラ」

※参加したい方は、右のQRコードにてご申請ください。

(先着順90名)

小さなプレゼントも用意しています。奮ってご参加ください!



●大阪梅田キャンパスチャペル

阪急大阪梅田駅から徒歩すぐ、アプローズタワー14階の大阪梅田キャンパス(1405教室)では、大学院授業期間中の月1回木曜日にチャペルアワーを開催します。

【どなたでもご自由にご参加ください。】

6月8日(木) 17:50~18:10 井上 智(宗教センター宗教主事)

●ランバスチャペル・ヌーンコンサート

西宮上ヶ原キャンパスの正門に入って右手に見えるチャペル「ランバス記念礼拝堂」では、礼拝はもちろん、コンサートや式典、講演会、卒業生の結婚式などが行われています。4月から関学を代表する音楽団体による恒例のヌーンコンサートが開かれます。お昼休みのひととき、どうぞ耳を傾けてみてください。

6月15日(木) 関西学院大学混声合唱団エゴラド

6月30日(金) 関西学院ハンドベルクワイア

7月 6日(木) 関西学院聖歌隊

7月 7日(金) 関西学院バロックアンサンブル

7月14日(金) 関西学院交響楽団

いずれも12時45分~13時15分

ところ: ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原キャンパス)

主催: 宗教センター・宗教音楽委員会

●関西学院会館ベーツチャペル日曜礼拝

授業期間中の第二・第四日曜日(原則)の午前10時から関西学院会館ベーツチャペルでは日曜礼拝を行っております。どなたでも(クリスチャンでなくとも)ご参加できますのでどうぞお越しください。

5月28日(日) 10:00~11:00

●CD・DVDライブラリー利用について

吉岡記念館事務室宗教センターには、教会音楽、キリスト教に関するCDやDVDを備えています。本学学生及び教職員（学生証または身分証明書必要）であればどなたでも利用できますので、希望者は事務室までお越しくください。

●使用済み切手収集にご協力ください

本学では「日本キリスト教海外医療協力会（JOCs）切手部」の活動に協力し、使用済み切手の収集をしています。通常切手も対象としていますので、どうぞ吉岡記念館事務室へお届けください。

郵送でのご送付先：〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町 1-155

関西学院吉岡記念館事務室宗教センター宛

●盲導犬育成のためご協力をお願いします

関西学院宗教活動委員会は、目の不自由な方々の社会参加促進を願い、社会福祉法人「日本ライトハウス」の募金活動に協力しています。吉岡記念館事務室はじめ各学部カウンターに募金箱を用意しておりますので皆様の温かいご協力をお願いいたします。

●「チャペル週報」のバックナンバー(2005年以降)は下記で閲覧できます。

URL : <https://www.kwansei.ac.jp/about/chapel/weekly/>

関西学院宗教センター

<https://www.kwansei.ac.jp/about/chapel/>

